

## 中野区地域公共交通計画の策定手続について

## 1 意見交換会等の実施結果について

## (1) 意見交換会

開催日時	会場	参加者数
12月8日(金) 18時～20時	中野区役所	1人
12月9日(土) 10時～12時	中野区役所	1人
計		2人

## (2) 関係団体からの意見聴取

団体数：1団体（中野区福祉団体連合会）※連合会所属団体は10団体

## (3) 主な意見の概要と区の考え方について

No.	意見の概要	区の考え方
第3章 公共交通サービス圏域		
1	公共交通ネットワークの構築が難しいエリアが図に示されているが、そのような地域の方の年齢構成や移動実態、移動困難者の把握をするべき。 その上で鉄道や路線バスに繋がるような新しいモビリティが必要か、又は既存の公共交通を活かしながら福祉的な移動のサポートを充実させるべきか検討いただきたい。	公共交通ネットワークの構築が難しいエリアに居住する区民の属性等は、今後の施策展開にあたって把握していく必要があると考えている。また、若宮・大和町地域で行っている実証運行の結果等も踏まえながら、ラストワンマイル交通の必要性や福祉施策への展開を検討していく。
第5章 施策		
2	中野区は交通の便が良く、公共交通が行き届いている。高齢者にとっては多少不便だと思うが、シェアサイクルや電動キックボード等の新モビリティを導入しても高齢者にとっては使いづらい。そのため、新モビリティの導入よりも、NPO等の活用等、福祉的な交通を検討いただきたい。	公共交通の補完や今後の運転手不足の深刻化への備えとして、高齢者も利用可能な福祉的な交通を含め、既存公共交通の活用や様々な交通手段を検討していく。
3	EVやFCVは、現時点で、大部分のエネルギー源が石炭・天然ガス等となり、CO <sub>2</sub> 削減に繋がらないのではないかと危惧している。 電力源の脱炭素化の見通しも把握すべき。	区は、走行時にCO <sub>2</sub> を排出しない低炭素型の移動手段であるEVやFCVの導入を促進するため、普及啓発を図っていく。電力源の脱炭素化については、国や事業者の動向を注視していきたい。

その他		
4	<p>中野駅周辺の開発により、西武新宿線沿線の商店街等における人の流れが少なくなることを懸念しており、区が目指す人口規模や人口分布等、区全体の方針を示してほしい。</p>	<p>中野区基本計画の中で、持続可能なまちであり続けるために、子ども女性比の一定の維持や出生数・合計特殊出生率の増加が必要であると示している。また、中野区都市計画マスタープランでは、各「まちの拠点（広域中心拠点・交流拠点・生活拠点）」の役割分担に則し、中野駅周辺だけではなく西武新宿線沿線各駅等の拠点を育成・整備することとしている。</p>
5	<p>西武新宿線の連続立体交差事業について、野方駅～井荻駅付近の具体的な方向性が示されていないが、地下化も視野に入れて検討してほしい。</p>	<p>西武新宿線の連続立体交差事業（野方駅～井荻駅付近）は、現在、東京都施行の準備中區間に位置付けられており、具体的な施工方法等は、検討中と認識している。</p>

## 2 中野区地域公共交通計画（素案）からの主な変更点

内容に関する変更点はなし。

【参考：主なデータの更新、軽微な文言や表現等の修正について】

- ・全体：本編デザインの変更
- ・P 1 5：幅員別道路網の更新（令和4年）
- ・P 1 6～1 7：鉄道の乗降客数の更新（令和4年）
- ・P 2 7：代表交通手段の構成比の図に、注記でタクシーの情報を追記
- ・P 4 0：経済センサス活動調査のデータを更新（令和3年）
- ・P 7 0：都市計画道路情報の更新（令和4年）

## 3 中野区地域公共交通計画（案）

資料2-2、2-3のとおり

## 4 今後の予定

令和6年2月 案に関するパブリック・コメント手続の実施

3月 計画策定